

## 第5回瑞浪市道の駅検討委員会

### <議事要旨>

日時：平成31年2月20日（水）10：00～

場所：瑞浪市役所4階 全員協議会室

出席委員：足立亘、石川亮子、伊藤和美、出村嘉史、名張誠、原田守啓、水野吉衛、  
水野幹隆、溝口純司、溝口博敏、森真二、鷺尾賢一郎、渡邊敏博  
（五十音順、敬称略）

欠席委員：尾崎浩之

事務局：瑞浪市役所 建設部 都市計画課

#### ■会議概要

（※議事要旨の発言者は、学識経験者の原田会長・出村委員のみ表示）

#### 1. 開会

#### 2. 会長あいさつ

#### 3. 議事

##### （1）瑞浪市道の駅基本構想案について

・事務局より瑞浪市道の駅基本構想案の説明を行った。

**会 長** 基本構想案はこれまでの議論を踏まえてとりまとめられたものである。本日、基本構想案について承認いただければ、それをもとにパブリックコメントを行うので、市民目線で改めて意見をいただきたい。

**委 員** P1の「道の駅検討の経緯」について、「さらに暮らしにくく」という表現は変えた方がよい。

**事務局** 表現を修正する。P31の「地域参画の検討」について、「釜戸の将来ビジョン協議会」は、まだ組織として確定していたため「仮称」とする。

**出村委員** P31の「地域参画の検討」について、「企業勉強会の開催」期間中に、イベント等実際に取り組むことに触れられていない。検討するだけでなく、取り組みを繰り返し実践することを期待しており、それを明記する方がよい。

**事務局** 早期から実践していく表現とする。

**会 長** 当初の事務局案では実践期間はもっと遅い時期であったが、より早く取りかかれるように修正いただいたので、その点が伝わるように修正いただきたい。

**出村委員** 実践的な取り組みは、継続性の観点から市の補助制度を用いることなく行われ

なければならない。実践的な取り組みを通して収益を上げる経験を積まなければ、継続的な経営は困難である。この期間を通して、自ら資金を回収する練習を行うことが重要である。

会 長 その考えは大事なことであるが、現時点では誰が担うか未定であり、補助制度に対する考えを明記するのは、はばかれる。

出村委員 枠にとらわれず、いかに自由な取り組みを行えるのかが鍵を握る。補助金がなければ取り組めないと考える人では、継続的に事業に取り組むことは困難である。

事務局 担い手については来年度以降に具体化していくが、補助金に対する考え方もあわせて慎重に検討を進めたい。

会 長 自立するということは他者に頼らないということであり、そうあるべきであるが、文言で表現する上では慎重に考えなければならない。

委 員 P3の「瑞浪市民アンケート」結果について、釜戸住民の釜戸に対する誇りがあまりにも低い、本当にこれほど住みづらいと感じているのか。このアンケート結果に対する解釈が重要だが、ここから読み取りづらい。

会 長 住民の満足度が低いから、道の駅を釜戸町でやろうということではなかったと認識しているが、改めて説明いただきたい。

事務局 基本構想の策定にあたり、地域の課題を抽出していく中で、このような結果となった。これらの地域の課題を解決できる道の駅ともするための方策について、議論を重ねてきたと認識している。その答えとして、よろずや等の道の駅に付加すべき機能が導き出された。

委 員 先日中学3年生にアンケートしたところ、釜戸に住みたいと回答した男子生徒は約40%いたのに対し、女子生徒は0%であった。非常にショックな結果であるが、市民アンケートの結果もそれほど間違いではないのだろうと思う。

事務局 これは平成29年度の瑞浪市民アンケートであり、市内1000人を無作為抽出しているため、釜戸地区は25人しか回答していない。その後、釜戸・大湫地区の住民600人を対象としたアンケートを実施したところ、「大変住みやすい」または「どちらかといえば住みやすい」と回答した人が合わせて52%であった。この住民アンケートの結果についても追記するのはどうか。

会 長 母数を増やして再度アンケートしたところ、釜戸住民の満足度は比較的高いという結果が得られた。この結果は事実であるが、2つのアンケートで違う傾向が見られることについて、市民の混乱を招くのではないか。

委 員 釜戸に対する満足度が低いという結果を、市民がどのように受け取るのかが気がかりだ。

委 員 危機感を持って取り組まなければならないというとらえ方ができないか。

出村委員 2つのアンケート結果を正しく解釈すべきではないか。市民アンケート結果を踏

まえて、再度詳しくアンケートを行った結果、住みやすいと回答する人が意外に多かったことから、地域のポテンシャルはあるにも関わらず、愛着のない状況に対する考察を、2つのアンケート結果をもって示せば良い。

**会 長** 地域の魅力がないわけではないので、積極的に魅力を引き出すことも必要であることについて考察を加えれば良い。ただし、釜戸地区の満足度が低かったために、道の駅を計画しているわけではないという点については、市民の誤解を招かないようにしなければならない。P1の「道の駅基本構想策定の目的」について、市民目線で考えると釜戸が前面に押し出されているように感じるが、この取り組みは釜戸のためだけではなく、瑞浪市やより広い地域の将来に対してプラスに働くので、その点について誤解のないようにしなければならない。今後のまちづくりのモデルケースとしてチャレンジするという市の方針が、市民に伝わるようにしてほしい。

**委 員** 道の駅ができる場所は釜戸町であるが、瑞浪市のための道の駅であるということについて、最初に明記していただきたい。P21の「よろずや」はコンビニと違うのか。

**事 務 局** コンビニで販売しているような商品も想定されるが、今後の実践的な取り組みを通じて、住民や道路利用者の目線に立ち、コンビニにはないサービスや商品等を総合的に取り扱うことを想定して、「よろずや」という表現を用いている。

**会 長** フランチャイズではなく、地域の方々が主体となって地域に求められるサービスやものを提供する場であってほしいという思いを込めて、「よろずや」と表現したと記憶している。

**事 務 局** 計画地周辺では、日用品等を購入できる場がないので、そういう場を提供したいという思いもあり、地域に根ざした商品の取り扱いや、高齢者の見守り等も想定し、地域主体のよろずやを目指したい。

**委 員** 幅広いということのようだが、「よろずや」は何でも販売できるということになりかねないので、前提となる条件は揺るがないようにしなければならない。

**会 長** P11の太字や下線を修正すること。P19の「農産物直売所」と「温浴施設」は順序を入れ替えること。P20の基本方針について、「可変的なしかけづくりが生まれる」という表現はわかりづらいので見直してほしい。P28の図表26について、防災備蓄について記載がないが、この辺りは防災拠点としての機能を担うのではないか。

**事 務 局** 道の駅は防災拠点化することを目指しているので、道の駅の中に備蓄物を備えることを想定している。

**会 長** 消防器具庫が記載されているため、備蓄倉庫等も記載すべきではないか。

**事 務 局** 防災機能の集約も今後検討を行うことについて追記する。なお、消防器具庫は消防団の詰所であるので注釈を付ける。

- 出村委員** P20 の基本方針について、「可変的にしかけを更新し続ける」としてはどうか。一つのやり方を押し通すのではなく、しかけがうまく機能しなかった場合に更新するという点はキーコンセプトとなる。また、しかけの更新は「地域主体」だけでは成立せず、条例の設置等、行政でしか対応できない事もあるため、官民連携が重要である。
- 会 長** 「可変的にしかけを更新し続ける」という、枠組みにとらわれることなく、柔軟な試みが可能な形で取り組むという点と、「地域主体」だけではなく、官民の役割分担のもとでうまく取り組めるようにというご提案であった。
- 出村委員** 運営は民間で行うわけだが、行政が現場の声を逐次制度に更新できる柔軟性を持っていると強い。
- 事 務 局** 当然ながら民間と連携しながら取り組むこととなるが、ここで示す内容は運営に対するものであるので、地域主体で考えてはどうか。
- 会 長** 地域の方々に積極的に関わってほしいという市の方針を掲げているので、その内容自体が官民連携を示しているのではないか。
- 出村委員** しかけを最終的に決定するのは行政側であるため、民間側がしかけを変えたいと考えたときに、この基本方針を持ってそれを主張できるかどうか気がになった。ただ、それが当然のことであると認識されているのであれば、あえてここで示す必要はない。
- 会 長** 担い手となる人々が取り組みやすいしかけでなければ継続しないので、柔軟性を持ってしかけを生み出すという方向性については承諾いただけるか。
- 委員一同** 異議なし。
- 会 長** 更新し続けること自体が目的ではないので、更新できるという表現にしてはどうか。
- 出村委員** 運営が軌道に乗ったとしても、そのしかけは数年後にずれが生じるので、しかけは更新し続けなければならないと考える。
- 会 長** 我々は当事者ではないので、こうでなければならないということを明記することは、はばかれる。当事者の中でそのような哲学が芽生えれば良く、ここで断言できるものではない。基本方針の表現については事務局と検討する。
- 委 員** P31 のロードマップは、道の駅がオープンするまでの期間を無駄にせず、オープンと同時に対応できるようなノウハウを、数年かけて身に着けなければならないという考え方が示されているので、しっかりと今後に生かしてほしい。
- 委 員** P24 の「広場の整備イメージ」について、「親水」と「浸水」という表現がまぎらわしい。「親水」という表現は馴染みがないので、わかりづらいのではないか。また河川改修はどこが行うのか。
- 事 務 局** 市で検討した上で、実現に向けて県へ要望することとなる。
- 委 員** まちづくりと一体となって緩い護岸とする等の改修は不可能ではなく、県内の

実績もあるので、計画が具体化したときに整備負担も踏まえて市と検討したい。また「浸水水位を下げる」とあるが、計画高水位は決まっているので水位は下がらない。

事務局 少しでも安全度を高くしてほしいという意味である。

委員 そうであれば、「浸水頻度を下げる」という表現に修正いただきたい。

事務局 そのように修正する。

委員 P2 の高齢化率について、データが数年前までしかないが最新データはないのか。

事務局 最新データを反映する。

会長 P17 の図表 14 の黒丸について、現在の道の駅の計画に取り込まれる部分はどれか。黒丸の付いているものはすべて取り込まれているのか。

事務局 カテゴリーとしてはすべて包括している。

会長 「できることから選択して取り組んでいく」というのは、道の駅以外も含めてのことか。

事務局 そうである。

会長 検討委員会の位置づけはどこに記載されるのか。

事務局 基本構想案の公表にあたり、検討委員会の開催経緯と委員名簿および肩書をあわせて公表したいと考えている。

委員 「代表」という表現は変更いただきたい。

事務局 承知した。また瑞浪青年会議所の水野委員は「理事長」とさせていただきます。

委員 承知した。

出村委員 P17 の図表 14 に「(再掲)」とあるが、どのような意味か。

事務局 重複するものがわかるようにしている。

出村委員 その意味がわかるように、注釈を付けてほしい。

事務局 承知した。その他ご意見等がある場合は、今月中に連絡いただきたい。また補足資料として、地域主体の運営の考え方についてイメージしやすいように、ロードマップで示した組織の例を提案する。指定管理者制度により地域主体の運営組織が道の駅全体の運営を担うケース、地域主体の運営組織が民間の飲食店等に業務委託し賃料収入を得るケース、市が収益性のある民間の飲食店等と直接契約を交わし、地域主体の運営組織がその他運営を担うケース等が考えられる。また市では「新たな事業チャレンジ支援補助金」の制度があり、創業または第二創業をする人に対し、上限 500 万円の補助を行っている。この補助金は初期投資の補助を行うものであり、運営そのものを補助するものではない。

会長 運営組織は指定管理者制度を前提としているが、別の方法もあるのではないか。

出村委員 都市公園法が改正されており、設置管理許可という制度により公園区域内において、事業者が必要に応じて空間をデザインしながら運営できるようになっている。これは公園の場合だが、全体の流れとしてシステムが変わりつつあるの

で、今後はより官民連携が進むことが予想される。将来的には様々な手法が考えられるため、指定管理者制度は現状において考えられる一例であるという認識であれば問題ない。目的外使用許可等、指定管理者制度以外の方法も認識しておくべきである。飲食店やイベント開催、清掃管理等の実働部隊は個別に活動するのではなく、連携しながら、全体をデザインコントロールして運営することが大切である。

会 長 手法として様々な方法が考えられるということで、今後勉強しながら検討を進めるという方針を示していただいた。概算事業費はどのように考えているか。

事務局 基本構想の段階であり不確定要素が多いことから、現時点で概算事業費を算出することは難しいため、計画が具体化して形が見えてきた段階で示したいと考えている。市として大きな投資が必要になるという認識は持っている。様々な事業手法を検討しながら、市の負担をなるべく抑えられるように検討を進めたい。

会 長 それでは次の議事に移る。

### (2) まちづくり推進協議会活動紹介

・ 渡邊委員よりまちづくり推進協議会の活動を紹介いただいた。

委 員 「てくてく釜戸」というウォーキングイベント、日曜楽市、夏祭り等の様々なイベントを実施している。また釜戸のキャラクターも制作する等、積極的な取り組みを行っている。これまで「健康・長寿のまち釜戸」という方針のもと、まちづくりに取り組んできたが、大きな変化のときを迎えているので、釜戸の良さを住民が感じる事、集いの場の工夫、地域の特色等、発信力を持って取り組まなければならないと感じている。道の駅は住民に変化をもたらすきっかけとなるので、道の駅につながるように数年かけて準備を進めたい。

会 長 道の駅に関わる取り組みは、まちづくりと連携しながら、引き続き積極的な活動をお願いしたい。

### (3) その他

事務局 本日のご意見をもとに、基本構想案の策定を行う。今後は4月にパブリックコメントを行い、市民から広く意見を募ることを予定している。なお、そこで寄せられた意見については、会長と協議の上、検討委員会で審議する必要があるかどうかの判断を行うものとし、場合によって6月頃に第6回検討委員会を開催する可能性がある。

会 長 パブリックコメントで検討委員会での審議事項となるような意見がなければ、本日が最終日となる。第6回検討委員会は「新任の委員にて開催」とあるが、どういう意味か。

事務局 組織内の人事異動等があった場合、委員を交代する可能性があるということだ。

会 長 今後の流れについて説明いただきたい。

**事務局** 今後はこの基本構想をもとに、運営の具体化、地域の意識醸成、基本計画の策定、事業手法の検討、道路管理者との調整等を進めて行きたい。来年度からは、特に運営に関する取り組みを具体化したいと考えており、勉強会や見学会等を通して地域の意識醸成を行いたい。またそれと平行して、基本計画の策定も行う予定である。委員の皆様には引き続き協力をお願いしたい。

**委員** 「将来ビジョン協議会」はどのように組織づくりを行うのか。

**事務局** 現段階で組織の姿は定まっていない。皆様の意見を伺いながら形を作り上げていきたい。

**会長** 担い手となる人々が集まり、取り組みを進める中で形作られるだろう。

**出村委員** 協議会は、実働部隊が好き勝手に活動することのないように、干渉する役割を担うべきである。その中でビジョンが醸成されていくと考える。

**会長** 協議会は社会的信用を得られる団体が良いというご意見であった。活発に議論いただき、基本構想案を概ねとりまとめることができた。議事は以上である。

#### **4. 閉会**

**事務局** 皆様のおかげで、今までにない道の駅基本構想案をとりまとめることができた。特に地域が運営の主体である点、地域の暮らしを軸とする点、現在の地形を生かす造成計画という点において、特色ある計画となった。

以上